

こくご か はんせい かだい 国語科の反省と課題

ぶかい きょうぎないよう 【部会での協議内容】

ぜんはん ぶかい ほうこく こうはん がつ じっし だい かい
前半ではクラス部会の報告をもとに、後半では 11月に実施した第2回
こくごかけんしゅうかい で かだい はな あ
国語科研修会で出た課題について話し合いました。

ぜんたい とお じゅぎょう む ことがら
～全体を通して、これからの授業に向けた事柄。～

じてん とく こくごじてん いちねんせい ひ かた がくしゅう のち つね
・辞典（特に国語辞典）については、一年生で引き方を学習した後は、常
ともと お すこ ていちゃく
に手元に置き、少しずつでも定着をはかりたい。

ちしき ひと しつもん ひと おお はんめん か こ
・「知識がある人・どんどん質問してくる人が多い反面、プリントに書き込
むのにとまどう人もいる」といった、理解度に差があることへのスタッ
フからのたいしょ
フからの対処。

もんだい こたえ こくばん か べんきょう くろう ひと こた
問題の答を黒板に書くときなど、勉強に苦勞している人には、「答え
あっていますよ！行ってらっしゃい！」と励まし、余裕がありすぎ(?)
の人には、「ここ、ちょっと違っていましたね」というような自信のな
い人に自信を持たせる役を担ってもらうなど、受講生の誰もが積極的
ばんしょ こくばん か ふんいき
に板書（黒板に書く）のできる雰囲気をつくりたい。

とく くろう ひと めくば じょうじく
また、特に苦勞している人に目配りができるよう、常時来ることがで
きるスタッフの必要がある。

たきょうか つか ようご むず べんきょう む きもち
・他教科でも、使われる用語が難しいと、勉強に向かう気持ちがひけて
しまう人もいるので、個別に用語や読みについて解説が必要なことも。ま
た、(これは特にじっくりクラスでは)、ゴミの分別やインフルエンザなど、

みぢか わだい ていこう はい じゅぎょう せってい じゅうよう
身近な話題には抵抗なく入っていけるので、授業テーマの設定が重要になる。

- クラス作りにも関わるが、勉強面で自信があるあまり、クリスマス忘年会などの行事にはしらせムードの人には、「クリスマス忘年会も授業の一環です」と積極的参加を促し、「挨拶係をやってみませんか」などと責任ある役目を担ってもらうのも必要。
- 普段の授業で板書する場面や、クリスマス忘年会での出し物など、発表(表現)することがきっかけで自信を持つようになる。こうした機会をこなしていくうちに表現すること(文章を書くことも含めて)に抵抗がなくなっていくのではないかな。

【第2回国語科研修会で出た課題について】

ぶん か いちねんせい にねんせい
「文を書くにあたって、一年生ではここまで、二年生では・・・といった学年ごとのステップを定めると他教科担当のスタッフもサポートしやすいのでは」という課題が出ました。一年生で出たものでも、二年三年で再度扱うことも必要ですので学年ごとに厳密に定めることは難しいですが、順序としては以下のようにするのがいいのでは、と確認しました。

あつか ぶん みじ なが こた き
～扱う文は短いものから長いものへ、答えが決まっているものから

ちゅうしょうてきがいねん はる
抽象的概念が入るものへ～

- 単純明快な短文で主語と述語を理解することから始まり、事柄の羅列に

なるが「自分の一日の行動を順番に書く」「料理の作り方を説明する文
を書く」という、具体的で正確な文を書くことを意識づけるのが重要。

- 文学作品などで登場人物の心理を想像する、自分の感想を書くなど、
抽象的な概念が入るものは難しい。抽象的概念を表現するために
も、例えば「文中の‘これ’とは何のことですか」というような、具体的
で答えがはっきりしているものを捉える（読む）力が土台になってい
なければならない。
- 一年生では主語と述語を理解する。実際の文章では、主語は省略さ
れているのが常であるから、まず述語を捉え、そこから主語を類推・特定
できるようにする。二年生では、接続詞が正しく使えるようにする。
三年生では、段落を意識するようにする。理想としては、全体の文書構成
がつかめるといいのだが、これは難しい。学年を通じた学習の目標は、
大枠ではこの順序でいいのではないか。

なお、年間の授業時間数を数時間増やすことができるならば、「自分の
趣味・好きなことについて書くなど、習作の時間に当てる」「さらに書い
た文章を推敲する」など、「書くこと」に使うのが適当ではないか、とい
う話しになりました。